

## マスク着用が困難な人がいます

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスクの着用がエチケットとして定着していますが、国の発達障害情報・支援センターのアンケート調査によると「がまんして、マスクをしている」50%、「マスクをすることがむずかしい」6%と、発達障害のある人の半数以上がマスクの着用が困難を感じています。

### ■発達障害特有の感覚過敏

理由としては「マスクが肌にふれることが不快」「マスクの中に息がこもる、水滴がつくことが不快」「マスク自体の臭いや、マスクの中の臭いが不快」等、発達障害特有の触覚（肌）などの感覚過敏によるものがほとんどですが、「体に熱がこもってしまい、体温調節が難しい」等の理由もあります。

### ■コミュニケーション上の困難

「相手の表情がわからない」「相手がマスクをしていると聞き取りにくい時があるが、聞き返すことがむずかしい」「相手がマスクをしていると、ふだんより、言われたことを理解するのに時間がかかる」等、「コミュニケーション上の困難を訴える回答も目立ちます。

### ■マスク等の着用が困難な人に対する理解を

厚生労働省では「マスク等の着用が困難な状態にある発達障害のある方等への理解について」を公表し、WHOのCOVID-19に関するアドバイスから「発達上の障害や他の障害、またはマスク着用が支障をきたす可能性のある特定の健康状態をもつ子どもに対しては、マスクの使用を強制するべきではない」としています。

成人については「発達上の障害に係るマスク着用の困難性には感覚過敏の特性によるものが含まれ、子どものみならず、成人に至っても継続する場合も想定され」ることから、「障害特性により、マスク等の着用が困難な方に対する国民の皆様のご理解をお願いいたします」と呼び掛けています。

マスク等を我慢して着用している人が一定数いることを周知することも職場の安心のために求められます。

社会保険労務士

岩田 由美

岩田由美社会保険労務士事務所代表。障害年金に関する業務をメインに行なう。主に発達障害者の就業支援を目的に、一般社団法人「障がい者才能開発支援協会」を設立。